

経営比較分析表

埼玉県 吉川市

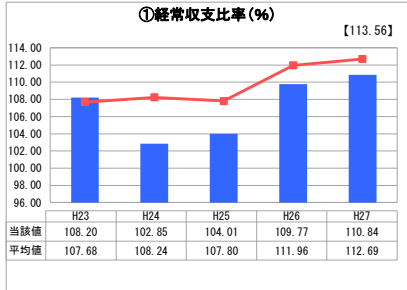
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	78.42	99.98	2,430

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
71,048	31.66	2,244.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
71,168	31.62	2,250.73

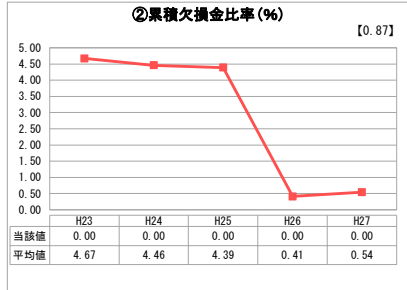
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

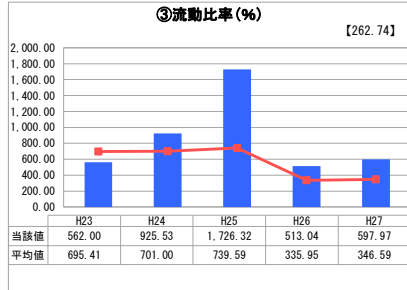
1. 経営の健全性・効率性



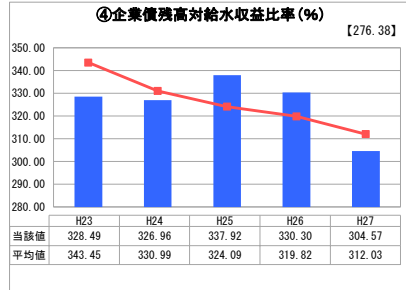
「経常損益」



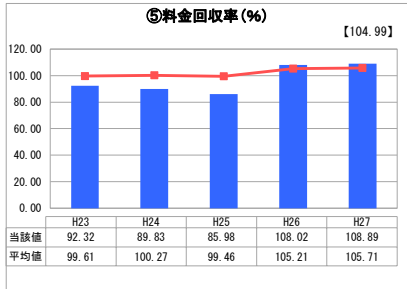
「累積欠損」



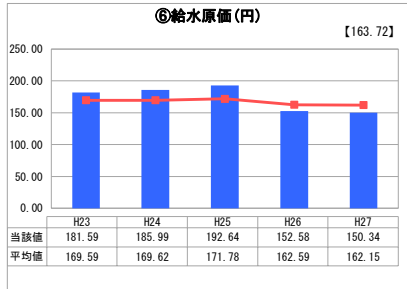
「支払能力」



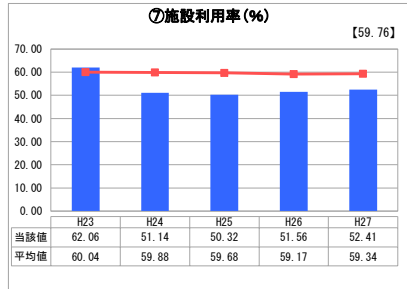
「債務残高」



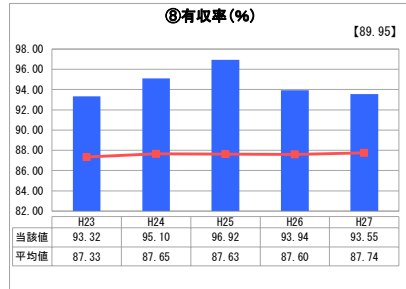
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

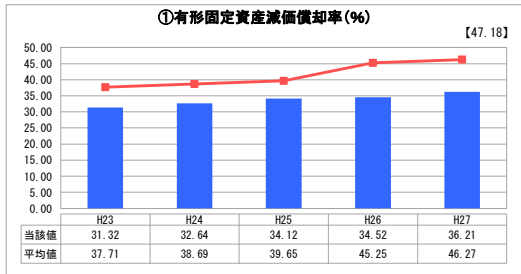


「施設の効率性」

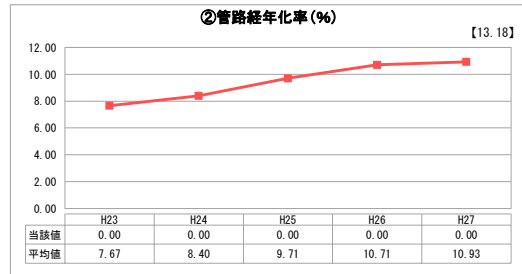


「供給した配水量の効率性」

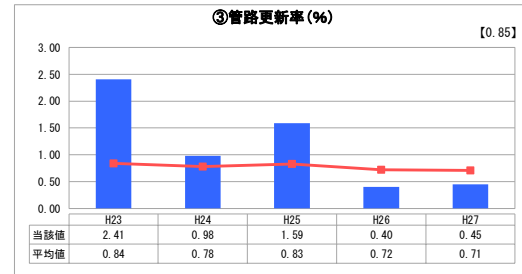
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は当該年度において、給水収益等の「収益」で、維持管理費等の「費用」がどの程度賸しているかを表す指標です。類似団体に比べてやや下回っているものの、基準値である100%を超えており、収支は健全な水準にあると言えます。
- ② 累積欠損金比率については、累積欠損金(複数年にわたり累積した損失)が無い場合、適正な数値となっております。
- ③ 流動比率は短期的債務に対する支払能力を示す数値です。基準値である100%を上回っており、支払能力があることを示しています。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は給水収益に対する企業債(借金)の残高を示しています。平成25年度以降、数値が減少しておりますが、今後の水道施設等の更新需要に伴う、借入の有無によっては数値が増加する可能性があります。
- ⑤ 料金回収率については100%を上回っており、「水道料金」で「水をつくるための費用」が賸していることを示しています。
- ⑥ 給水原価については類似団体に比較して下回っており、前年度と同等の水準を維持しております。
- ⑦ 施設利用率については、類似団体に比較してやや低い数値となっておりますが、適正な余力を持つ施設規模を有していると考えられます。
- ⑧ 有収率は水道施設等を通じて配水された水が収益に結びついているかを判断する数値です。この数値が低いと配水管の漏水等が疑われますが、高い数値を維持しており、適正であると言えます。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、数値が高いほど耐用年数に近い資産(水道施設、設備等)が多いことを示すため、類似団体に比べて比較的新しい資産であることがわかりますが、今後の老朽化は避けられないため、更新等について、計画的に行う必要があります。
- ② 管路経年化率については、法定耐用年数を超えた管路がないため、適正な数値となっております。
- ③ 管路更新率については、平成26年度に引き続き市街化区域内の工事が主となり、市民生活への影響を考慮する必要があったことから、前年度と同様の数値となっております。

全体総括

各指標から総合的に判断すると、吉川市水道事業は現在のところ、おおむね安定した効率的な経営状況にあると言えます。しかしながら、今後は料金収入の減少が見込まれる一方で、法定耐用年数を迎え、老朽化する施設や設備の更新費用等の大幅な増加は避けられません。このような状況の中、安定した効率的な経営状況を維持するためには、さらなる現状の分析、将来にわたる財政計画、投資計画を明確化するなど、これまでに以上に計画的かつ効率的な事業運営を行う必要があります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。